Ichioka 会報

1996/9 創刊号

大阪府立市岡高校開放講座の後援団体＝市岡国際教育協会会報
発行人／八木正一／編集／会報編集委員会
大阪市港区市岡元町2-12-12 市岡高校内／06-582-0330

市岡高校開放講座

日本語日常会話講座

◎教室＝大阪府立市岡高校◎

- ●金曜日クラス（毎週）
  午後7時～8時30分
- ●土曜日クラス（第1、第3、第5）
  午後3時～4時30分
- ●授業料無料

ボランティア希望者の説明会

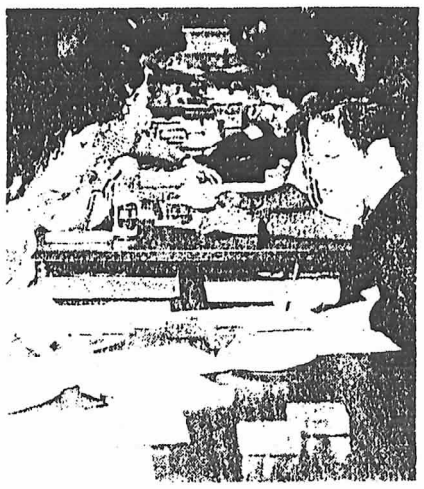
会報は「コミュニケーションの場」

市岡国際教育協会理事長
八木正一

会報を出す目的はいろいろある。事務的な連絡もその一つであるし、趣味の場を提供し会員の親睦の一助とするのもその一つである。

日本では「物言わざるは腹膨れる思いして」と古くから言われている。学習者やボランティアの方々にも「こうしたら……」といった提案や、要望も多いことと考えられます。それらを伝達する機会は案外少ない。そうした心のふれあいの場を提供するのも会報である。市岡国際教育協会が後援する市岡高校開放講座の今後の発展のために、会報が「心の広場」としての役割を果たせることを期待しているところである。

（市岡卒業生・元岡山大学教授）



金曜日クラス

七夕づくり

外国語としての日本語

市岡国際教育協会理事
石橋由紀子

ボランティアのほとんどの人が「外国語としての日本語」を話すという初めての体験の中で「ボランティアの心構え」や「外国語としての日本語日常会話」の研修も充分できないまま「市岡高校開放講座」がスタートしました。

スタッフと学習者との和やかな雰囲気の中にも緊張感が漂う市民レベルの個性ある日本語会話教室だと感じました。

この教室の役割は、ただ日本語を学ぶというだけでなく、言葉を学習することによって学習者の生活の自立を支援するために、住みやすい環境をつくっていくことです。このことは不自由な日本語を側面から支援することで学習者との交流ができると同時に私達スタッフ自身の生活・文化を見直しする機会が生まれると思います。

学習者から見れば「市岡高校開放講座」の居心地がいいかどうかを決めるのは当然のことながら学習者自身です。まず、接しているスタッフが好きになり、地域が好きになり、日本が好きになった時、本当の日本語の支援が始まると思います。市民レベルでの相互理解を進めること、それを担っているのがボランティアの役割だと思います。

（ボランティア・コーディネイター）

市岡高校開放講座を後援する 市岡国際教育協会の運営にご協力を！

今後、市岡高校開放講座を支える優秀なボランティアを今後約100人ぐらいの規模に増やし、受講者が安心して高いレベルの教育が受けられるようにしたいと思います。その為に必要な財源をどうしても確保しなければなりません。大阪府などの助成金では到底賄えません。よろしくお願い申し上げます。

（会計・八尋愛子）

年間会費は1口2、000円です。

市岡国際教育協会

郵便振替口座番号　00900=4=95748

学習者の声

うれしかった、学校からの電話

市岡高校開放講座学習者（韓国）
金順愛

私が日本語の勉強をもっとしたいと思った理由は私が娘と話していると、「お母さんの発音は変だ」と言われ、韓国なまりの発音をなんとか直したい思ったからです。

日本語会話の発音がうまくなれば、次は将来娘に出す手紙を上手に書けるようになることです。日本語のカタカナやひらがなは書けるのですが漢字がどうも難しくて書くとなるとすごく困難です。

そういうことで、悩んでいた時新聞に外国人のための日本語会話教室が開かれると書かれていた。きっと多くの希望者があって入学なんてできないだろうと思いハガキで応募してみました。すると学校から電話がかかってきたのでうれしかったです。私のクラスはボランティア一人、学習者の私一人という個人授業です。

私は日本語を早く上手になりたいため、ボランティアの方々のいそがしいのを考えずに週2、3回でも通いたいと勝手な希望をもっています。夏休みもあとわずかですので、二学期が始まるのが楽しみです。

私は日本語は基礎のないまま、ただ聞き覚えただけで、軒につるしたほし柿と同じです。これからもどうぞよろしくおねがいします。（談）

多様な社会がそこに！

市岡国際教育協会理事
浅田知里

「こんにちは……」学習者とボランティアの明るい声で始まる市岡高校開放講座（土曜日クラス）に縁があってスタッフとして参加しなんとか一学期を終えました。

最初開放講座の話しを聞いたとき、ボランティアはともかく学習者がそんなに集まるのかと心配しました。開校式を迎える時期には国籍も年齢、性別、職業も様々な人が大勢応募があり正直なところ驚きました。

これほど多くの異なった文化を持つ人達がわれわれの隣人としてこの地域に生活していること、日常生活に多文化、多民族（民俗）の社会が根づき始めていることに驚きを感じた。

このような多様な文化との共生と交流進める教室は、教育の本質的である「一人ひとりの違った資質を認め合い、育ち合う」という学校本来の目的とぴったり重なりあっていると思います

いよいよ土日本語会話教室がはじまってみると、とにかく学習者の熱心なことと楽しんでいること、折り紙やカルタ作り、七夕の短冊づくりなど入いに遊び学んだ。「学校が楽しくてたまらない」勉強がよく分りおもしろくてたまらない。本来あるべき学校教育の姿ではないかと思われます

（ボランティア・高校教諭）

カルタづくり（土曜日クラス）

生活の応援を！

市岡高校開放講座ボランティア
谷口豊子

国際化時代と言われる昨今、日本人も外国へ留学する若者が増えています。外国へ留学生として送り出している家族が一番心配するのは、病気や事故のときに外国語で充分な説明ができるだろうかということでしょう。

日本に来ている外国人にもおそらく同じ悩みはあると思います。まだあまり日本語を話せない学習者と接するとき、必死に相手の言葉を聞き取ろうとしている。その吸い込まれそうな目に出会うとき、日本語を指導する責任を感じると共に、心から日本での生活を応援してあげたいと思うのです。

（市岡国際教育協会会員）